

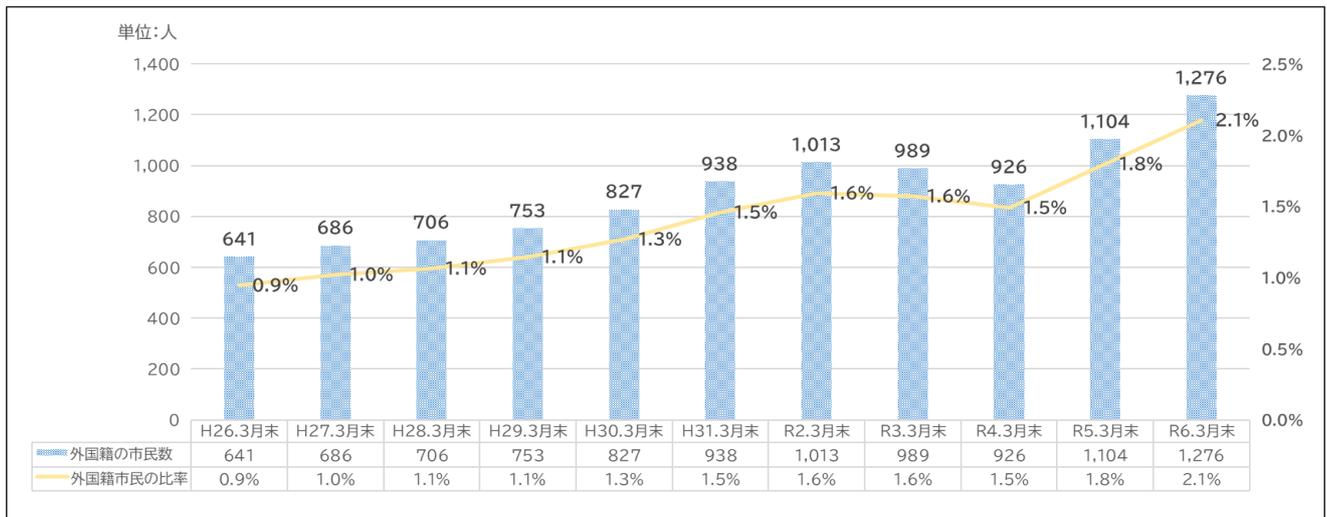
丹波市の外国人市民の状況について

1 外国籍の市民数・割合

令和6年3月末時点の外国籍の市民数は、1,276人で、市民全体(60,581人)の2.1%を占めており、10年前の平成26年3月末時点と比べると、約2倍の人数となっています。

また、新型コロナウイルスの影響により、令和3年3月末から令和4年3月末では、一度減少傾向となりましたが、以降は人数、比率ともに増加しています。

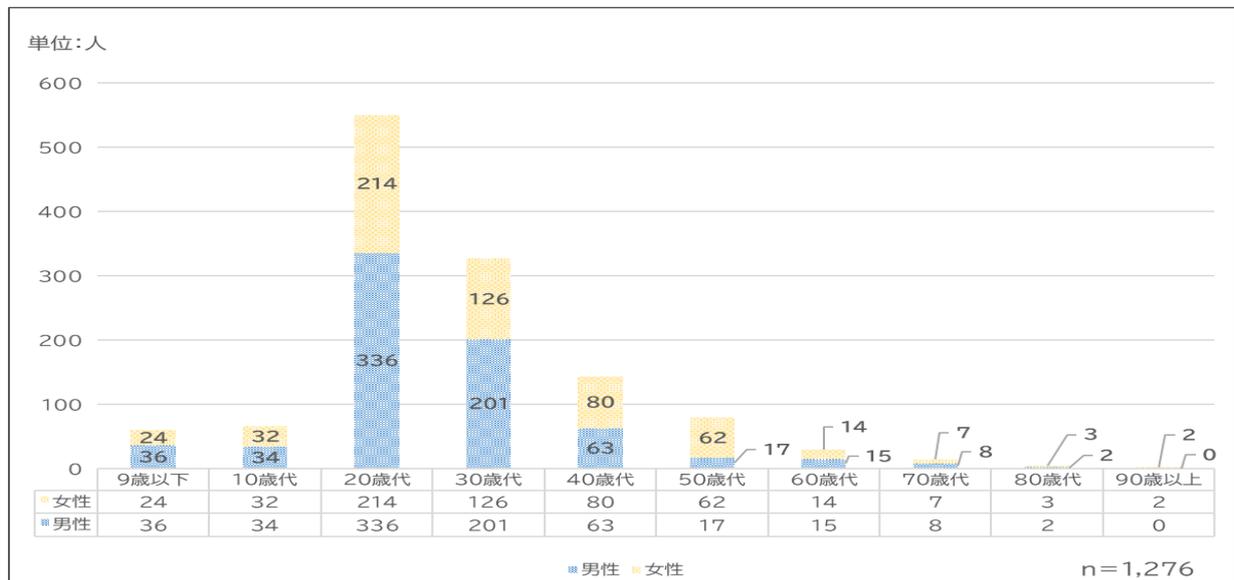
図1 外国籍の市民数・割合の推移(住民基本台帳から)



2 男女別年齢別の人数

男女別にみると、男性が712人、女性が564人となっています。年齢別では20歳代が550人で最も多くなっており、全体の43%を占めています。次に30歳代、40歳代が続いています。

図2 令和6年3月末時点の男女別年齢別の外国籍の市民数(住民基本台帳から)



3 国籍別の人数

令和6年3月末時点で、35カ国、1,276人の外国籍の市民が暮らしています。国籍別で見ると、ベトナム、フィリピン、中国の順で多く、最も多いベトナムは569人で、全体の44.6%を占めています。

また、外国籍市民数上位7カ国の人口推移をみると、中国が減少している一方で、ベトナム、フィリピン、ミャンマー、インドネシアが増加しています。

図3 令和6年3月末時点の主な国籍別の外国籍の市民数(住民基本台帳から)

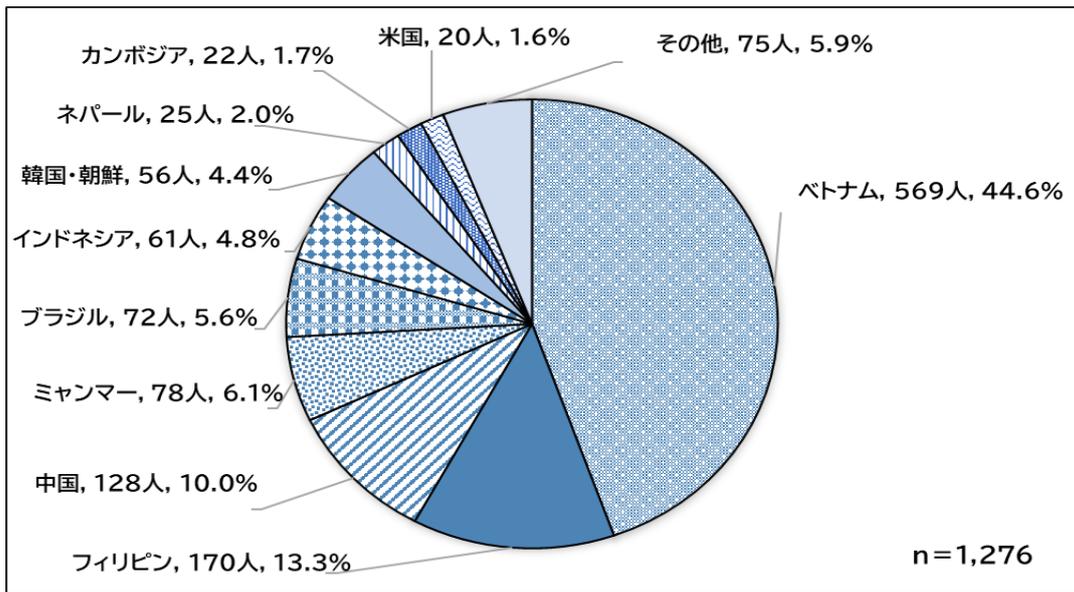
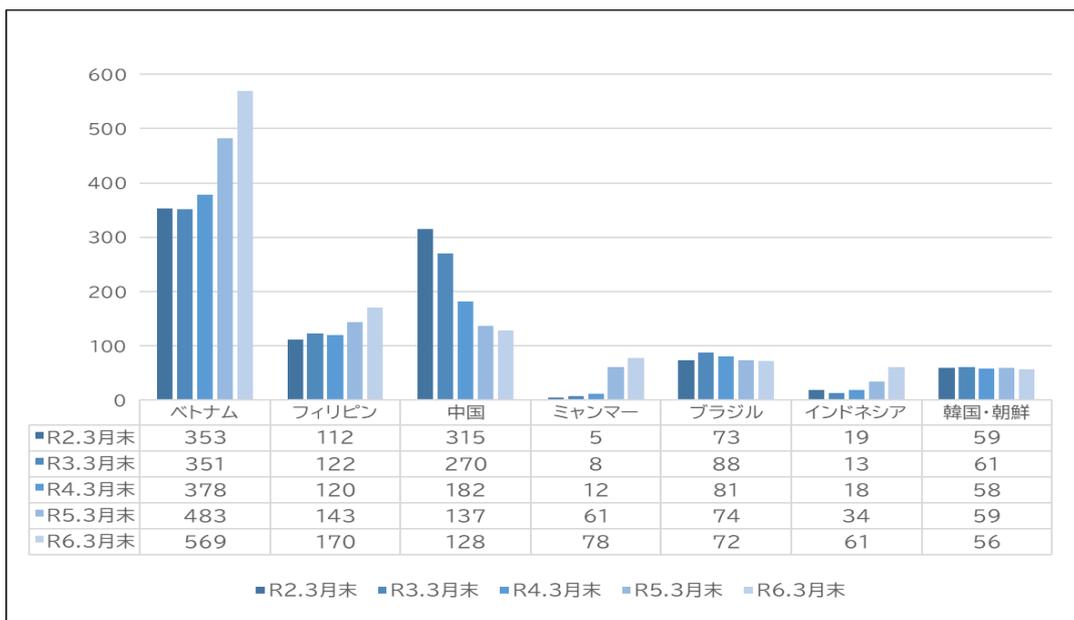


図4 外国籍の市民数上位7カ国の人口推移(住民基本台帳から)



4 在留資格別の人数

令和6年3月末時点の在留資格別人数では、技能実習が374人で全体の約3割を占めています。次いで、技術・人文知識・国際業務、永住者、特定技能、家族滞在が続いています。在留資格別人数の推移では、技術・人文知識・国際業務、特定技能の就労資格が増加しています。また、永住者、家族滞在、日本人の配偶者等の身分に基づく資格についても緩やかに増加しています。

図5 令和6年3月末時点の主な在留資格別の外国籍の市民数(住民基本台帳から)

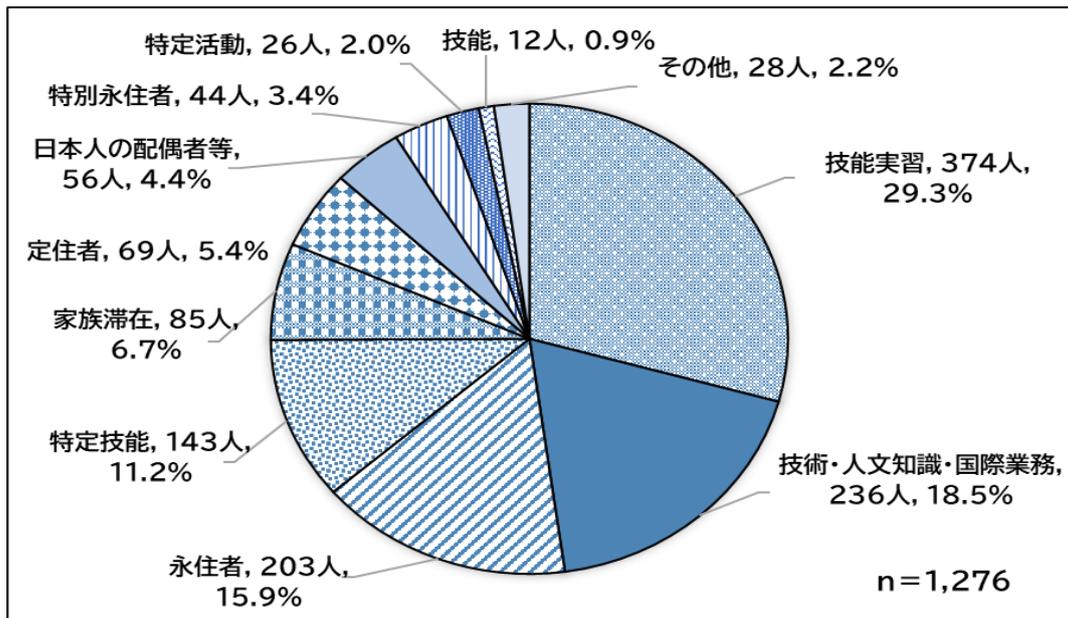


図6 在留資格別人数上位7資格の推移(法務省:在留外国人統計から)

